

2023年度

科目名称	応用整復学
授業コード	BH359
英語名称	Applied reposition by Judo 4
学期	2023年度後期
単位	1.0
担当教員	戸部 悠紀 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復理論の既習範囲を中心に、基礎学習として重要な解剖学・生理学や他の科目を含め、柔道整復師に必要な知識の習得を図る講義を实践する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	各種スポーツの救護活動で実体験した内容や、整形外科・接骨院院長などの実務経験に基づき講義する。 (所有資格：柔道整復師)
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師の社会的役割を理解し、適切に行動するための知識を身につけている。」のために「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」を目的とする。基礎的知識および柔道整復師国家試験水準の知識、臨床に活かせる技術を理解し、講義内容について重要点を要約できる学習力を身につける。
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業ガイダンス (倫理含む) 上肢 (骨・関節・筋) 2) 下肢 (骨・関節・筋) 3) 骨折・脱臼・筋・腱・神経の総論 4) 上肢の骨折について 鎖骨～上腕骨 5) 上肢の骨折について 前腕骨～指骨 6) 上肢の脱臼について 胸鎖関節～肘関節 7) 上肢の脱臼について 橈骨手根関節～指節間関節 8) 上肢の軟部組織損傷について 肩部～肘部 9) 上肢の軟部組織損傷について 前腕部～指部 10) 下肢の骨折について 骨盤骨～大腿骨 11) 下肢の骨折について 下腿骨～趾骨 12) 下肢の脱臼について 股関節～膝関節

2023年度

計画・内容	<p>13) 下肢の脱臼について 足関節～趾節間関節</p> <p>14) 下肢の軟部組織損傷について 股関節部～膝部</p> <p>15) 下肢の軟部組織損傷について 下腿部～足部</p>
授業の進め方	<p>解剖学的な理解も含めて教科書を中心にプロジェクターやプリント等を利用しながら進め、復習のため授業内に既習範囲の小テストなどを行うこともある。</p> <p>過去の国家試験問題や演習問題を解いて重要点を把握する。</p> <p>講義の内容により最後に講義内容についての授業内レポート(要約)を作成・提出する。</p> <p>対面での講義実施が不可能な場合はzoomにより遠隔にて講義を実施する。</p>
能動的な学びの実施	<p>アクティブ・ラーニングのLite技法を用いて、短期記憶で消させずに長期記憶となるように実践する。</p>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・次回講義内容となる範囲の予習を行い、復習内容と合わせて不明な点をまとめる。 ・教科書、プリント、講義内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること(合計60時間程度)
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・社団法人全国柔道整復学校協会監修・社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学・理論編」発行所・株式会社南江堂(7200+税) ・社団法人全国柔道整復学校協会監修・社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学・実技編 第2版」発行所・株式会社南江堂(7000+税) ・社団法人全国柔道整復学校協会監修・岸清、石塚寛編「解剖学 第2版」発行所・医歯薬出版株式会社(7800+税) ・社団法人全国柔道整復学校協会監修による国家試験対象科目の教科書
成績評価方法と基準	<p>期末試験の成績、講義の取り組み方など総合的な観点から評価する。</p> <p>期末試験85%、レポート・講義への取り組み)15%</p> <p>対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる課題で評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や配布資料等を行う。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>柔道整復師国家試験資格取得に必須の科目であり必修の科目のため必ず履修すること。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>ZOOMによる講義または課題によるレポートを作成し提出</p> <p>講義への参加状況およびレポート課題内容を総合的に評価する。レポート課題の未提出および提出期限を過ぎてからの提出は欠席扱いとする。</p> <p>出欠状況、レポート課題50%、期末テスト50%</p> <p>対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する</p>